

(別添2)

No.	
策定年月	令和3年5月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画 愛別産地 (作成主体:愛別町農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

愛別町は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が約9割を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、加工用米や飼料用米等の作付けにより水張面積を維持しているものの、将来を見据え、施設園芸による高収益作物の生産推進と併せて、土地利用型作物である麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が進み1戸当たりの経営面積が拡大している状況や、国営のほ場整備事業でほ場が大区画化されていくことを踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し、実需が求める品質の生産を継続していくとともに、耐病性品種等への切り替えを進め、単収の増加と安定を実現する。

現在、愛別町においては、水田収益力強化ビジョンにより水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画で麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに、麦・大豆の生産拡大を図る経営体の取組や面積を人・農地プランに反映することで、地域や関係者間の連携を強化して麦・大豆の生産

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・本地域で生産している小麦は、春まき小麦「春よ恋」はパン・中華麺用として、秋まき小麦「きたほなみ」は日本めん用として、ホクレンを通じて熊本製粉(株)、北海道製粉協会などの製粉メーカーに販売されている。北海道においては、秋まき小麦の販売予定数量が購入希望数量を上回っている一方、春まき小麦の販売予定数量が実需からの購入希望数量を満たしておらず、当地域としても秋まき小麦を春まき小麦に転換し、春小麦の作付面積の拡大と単収の向上を図る必要がある。

・春まき小麦の作付面積拡大のためには、水稻との作業競合を回避し、限られた期間で耕起・播種などの作業を実施できる技術体系の確立が必要があり、作業の高速化・省力化、ほ場の団地化による効率化が課題となっている。

・大豆については、生産の9割を占める品種「とよみづき」は、契約栽培を行っている道内卸業者を經由し、全国の豆腐、煮豆メーカーに向けて販売している。近年、輸入情勢の変化や府県産の作柄が不安定であることを背景に、北海道産大豆の需要が高まっていることから、当地域においても、作付面積の拡大と単収の向上により生産量を拡大するとともに安定した供給を図る必要がある。

(2) 生産における現状と課題

近年、作付面積は小麦・大豆ともに減少傾向で推移しており、単収は秋まき小麦・大豆については増加傾向となっているものの、春まき小麦については、北海道の令和2年産単収(361kg/10a)よりも地域の単収(130kg/10a)が、道内他産地と比較しても低い状況にある。

単収低下の原因として湿害が一因となっており、収量を向上させるためには、心土破碎や深耕の実施によるほ場の透排水性向上、土壌診断に基づく施肥や土壌改良資材の施用等による土質の改善が課題となっている。

また、担い手への農地集積が進む中、今後において1農家あたりの作業面積が一層拡大することで、適期作業の逸失等によって単収や品質の低下を招く恐れがあり、ICT技術を活用した作業の導入や作付の団地化等の推進によって作業の効率化を図り、品質の維持と単収を向上させていくことが課題となっている。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)						単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	春よ恋	(9.3)	9.6	(5.2)	5.9	(5.3)	5.4	190	136	130	18.2	8.0	7.0
	きたほなみ	(10.4)	10.7	(6.7)	7.3	(6.7)	7.0	262	247	374	28.0	18.0	26.2
作物計		(19.7)	20.3	(11.9)	13.2	(12.0)	12.4	228	197	268	46.3	26.1	33.2

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)						単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	とよみづき	(38.7)	40.2	(39.4)	40.7	(33.9)	35.7	156	193	232	62.7	78.6	82.8
作物計		(38.7)	40.2	(39.4)	40.7	(33.9)	35.7	156	193	232	62.7	78.6	82.8

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	春よ恋	6.60	70.4%	—	0.0%	3.07	58.1%	
	きたほなみ	3.32	31.9%	4.78	71.1%	4.78	71.1%	
作物計		9.92	50.1%	4.78	40.1%	7.85	65.3%	

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	とよみづき	9.64	24.9%	16.61	42.2%	3.26	9.6%	
作物計		9.64	24.9%	16.61	42.2%	3.26	9.6%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

北海道においては、「団地」とは、次の一以上の水田活用の直接支払交付金の交付対象水田に該当し、4ha以上であって、一連の農作業の継続に支障が生じない同一作物を栽培している2筆以上の隣接する農地とする。

①畦畔で接続する2筆以上の交付対象水田

②農道(農作業用の機械が往来に支障がない交通量であり、一連の農作業の継続に支障がない道道及び市町村道を含む)、水路等を挟んで隣接する2筆以上の交付対象水田

③各々一隅で接続する2筆以上の交付対象水田

④段状に接続する2筆以上の交付対象水田

⑤耕作地の宅地に接続している2筆以上の交付対象水田

⑥未耕作地又は空き地を挟んで隣接する2筆以上の交付対象水田(管理が一体的であって、農作業が一連の流れの中で実施可能な圃場の位置関係であるもの)

なお、愛別町では、町内を流れる一級河川の石狩川と愛別川に沿って広がる農地をその支流が分断していることから、団地の形成において条件が不利であると判断し、団地化基準面積を3haを定め、上記の条件を満たす農地を団地とする。

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(1) 取組方針

① 需要に応じた生産と販売の実現

JAと一体となって需給動向の把握に努め、米麦生産振興協議会や町内農業者の全体会議において情報提供を行うことで、実需者のニーズに沿った作付けを誘導する。小麦は実需とのミスマッチ解消に向けて、秋まき小麦から春まき小麦への転換を推進するため、水稻との作業競合を回避し、限られた期間で耕起・播種などの作業を実施できる技術体系の確立を推進し、作業の高速化・省力化に資する取り組みや機械の導入を支援する。大豆は、需要の増大に対応した増産を目指し、作付面積の拡大と単収向上を図るため、効率的播種技術等の導入や湿害対策技術の導入を推進し、取り組みに必要な機械導入を支援する。

② 団地化の推進

農地中間管理事業を活用して担い手への農地集積を推進していくとともに、年に2回開催している人・農地プランの見直しに係る地域懇談会や米麦生産振興協議会の各部会(麦・大豆)を活用して、麦・大豆の団地化(現状麦7.85haを目標年13ha、同大豆3.26haを目標年15ha)に向けた話し合いを実施する。

③ 土づくり

土壌に起因する低収要因の改善に向けて、麦・大豆ともに作付けするほ場の土壌診断の実施を推進し、その結果に基づく施肥や土壌改良資材の投入等の土づくりに向けた取組を実施する。

④ 排水改良

排水の改善に向けては、麦・大豆ともに国営緊急農地再編整備事業の実施によって透排水性機能が向上したほ場での作付けを推進するとともに、明渠・暗渠の計画的な設置・更新や深耕・心土破碎など排水性向上に資する営農技術の普及を水田麦・大豆産地生産性向上事業や水田活用の直接支払交付金(産地交付金)を活用して推進する。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進については必ず記載する。その他必要な項目を産地の実態に即して記載すること。

(2)計画

① 生産量

作物名	品種名	令和2年産(現状)			令和9年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
小麦	春よ恋	(5.3) 5.4	130	7.0	(10.2) 10.3	150	15.5	
	きたほなみ	(6.7) 7.0	374	26.2	(5.7) 6.0	390	23.4	
作物計		(12.0) 12.4	268	33.2	(15.9) 16.3	238.3	38.9	

作物名	品種名	令和2年産(現状)			令和8年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
大豆	とよみづき	(33.9) 35.7	232	82.8	(51.7) 53.0	240	127.2	
作物計		(33.9) 35.7	232	82.8	(51.7) 53.0	240	127.2	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 災害等により、現状値として直近年を用いることが適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

② 団地化

作物名	品種名	令和2年産(現状)		令和9年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	春よ恋	3.07	58.1%	9.00	88.2%	
	きたほなみ	4.78	71.1%	4.00	70.2%	
作物計		7.85	65.3%	13.00	81.8%	

作物名	品種名	令和2年産(現状)		令和8年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	とよみづき	3.26	9.6%	15.00	29.0%	
作物計		3.26	9.6%	15.00	29.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

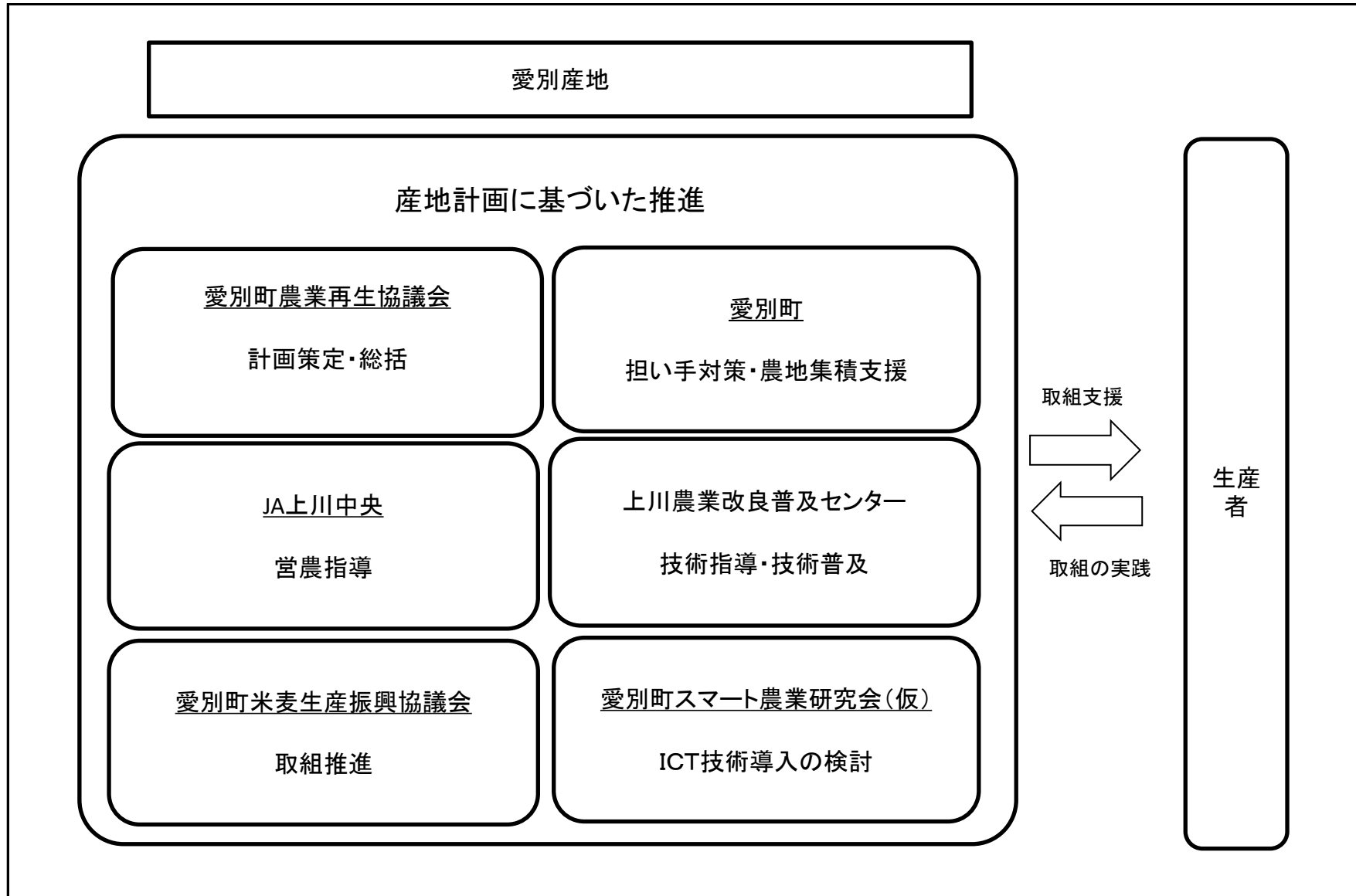
※ 現状値については、原則、大豆は令和元年または2年産、麦は令和2年産または3年産の数値を記載すること。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目(作物)の作付面積に占める割合を指す。

4. 推進体制及び役割



5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	水田収益力強化ビジョン	令和3年	
2	人・農地プラン	令和4年3月(予定)	
3			
具体的連携内容 <p>本計画の実施に当たっては、北海道の「麦・大豆生産性向上計画」との整合を図るとともに、本計画の内容を、毎年作成する水田収益力強化ビジョンに反映させることとする。 特に、団地化の推進にあたっては、町内7地区で作成する「人・農地プラン」との連携を図り、集積された農地が効果的に活用されるよう団地化を推進する。</p>			

6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
○	水田麦・大豆産地生産性向上事業	当該事業により麦・大豆作付け圃場での排水対策の実施及び対策実施に係る機械の導入を目指し、収量・品質の高位安定化及び収益性・生産性の向上を図る。
○	スマート農業総合推進対策事業のうち次世代につながる営農体系確立支援事業	令和4年度に「産地の戦略づくり支援」において、新技術等を組み入れた営農技術体系を検証し「産地営農体系革新計画」の策定を目指すことで省力的・効率的な生産を図る。
○	国営緊急農地再編整備事業	平成29年から令和12年までの事業期間において、ほ場整備工事を実施することで、ほ場の大区画化と透排水性の改善を図る。

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を入力してください。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。